

企業調査ニュースレター

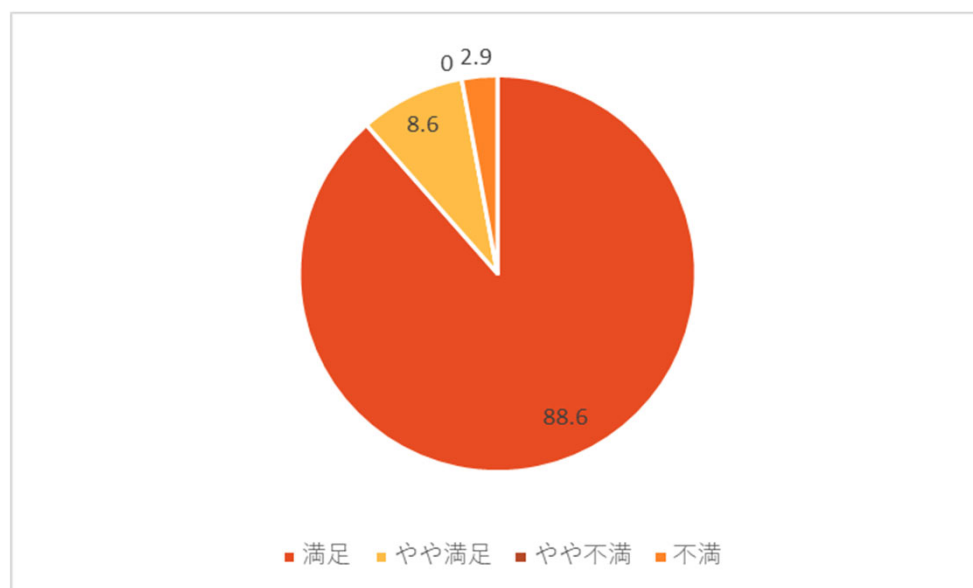
九州大学ステークホルダーのみなさまへ

このニュースレターは、教育改革推進本部「企業調査（2021年度）」（代表者：小湊卓夫先生（基幹教育院））について広報する目的で、九州大学ステークホルダー調査（KU-SHS）学生班※がとりまとめたものです。学生のみなさんにも気軽に見ていただけるように、大胆にグラフを変えて見やすくした箇所もあります。詳細は「企業調査報告書」（<https://ueii.kyushu-u.ac.jp/pages/stakeholder.php>）をご確認ください。

このニュースレターには、アンケート調査から分かった企業からみた九大生の印象だけでなく、学生班の視点での考察も掲載しました。それは、このニュースレターが企業と学生の双方からの意見交換の一助になればという思いからです。もちろん、ここに載っているような意見が全九大生の意見を代表するものではありませんが、みなさんの進路選択や就職活動について、肩の力を抜いて考えるきっかけや材料にして頂けたら幸いです。

1. 満足度

九州大学の卒業生・修了生を採用された結果に関する満足度をお尋ねします。

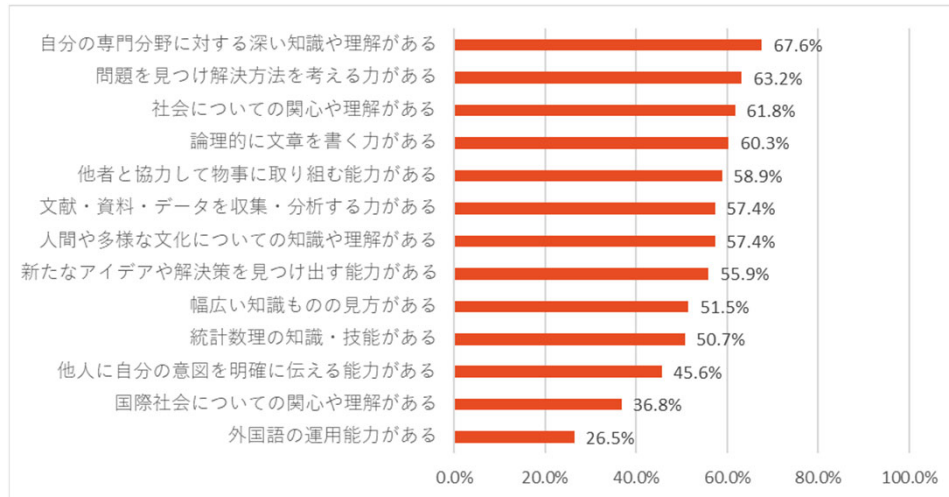


約9割の企業が「満足」と回答していました。九州大学出身者の職場での活躍が伺えます。

2. 他大学出身者との比較

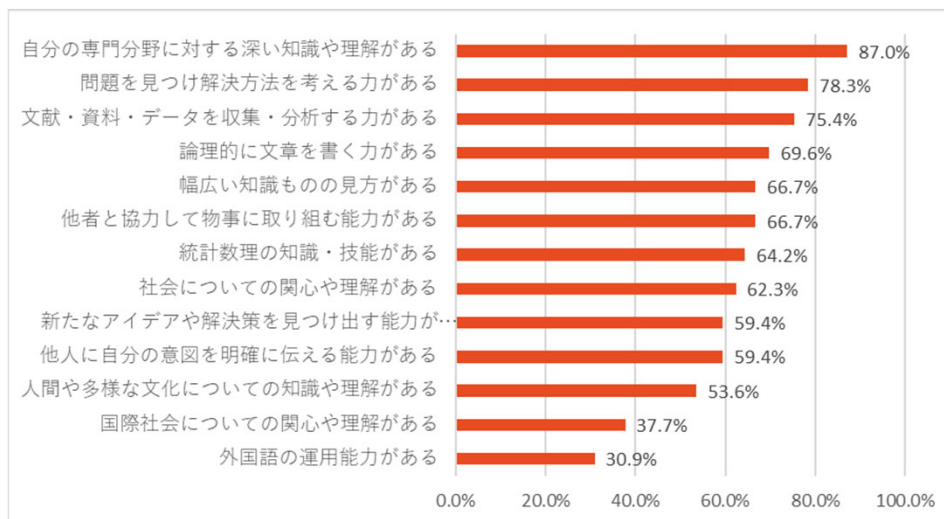
他大学出身者と比較して、在職している九州大学出身者に対し、どのようなイメージをお持ちですか。本学学部卒業生/大学院修了生で在職している者の採用時のイメージについてお答えください。

学部卒業生



学部卒業生のイメージとしては、「自分の専門分野に対する深い知識や理解がある」や「問題を見つけ解決方法を考える力がある」が多くの回答を集めています。一方で、「外国語の運用能力がある」というイメージは薄いようです。

修了生

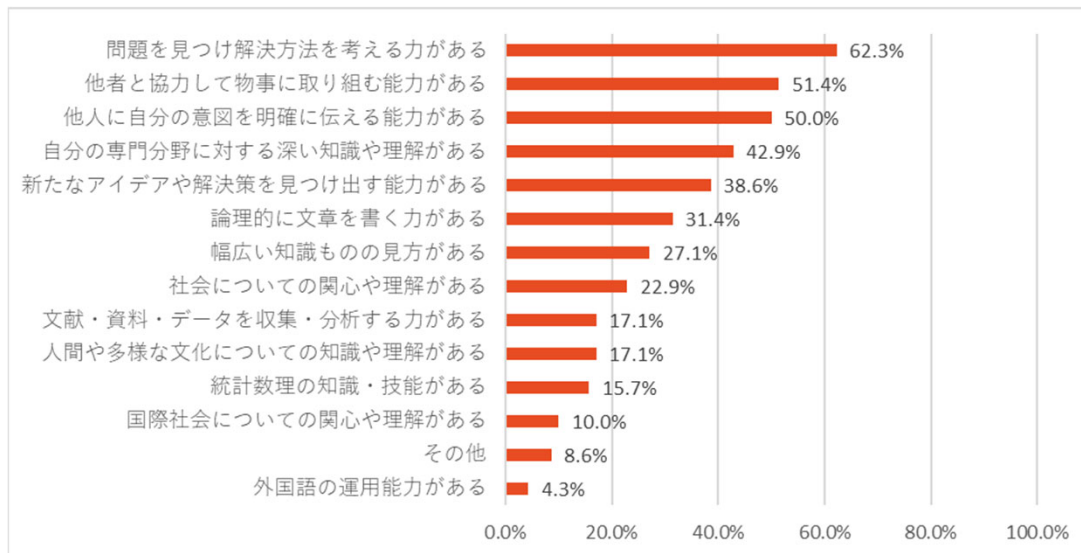


修了生のイメージにおいても、「自分の専門分野に対する深い知識や理解がある」や「問題をみつけ解決方法を考える力がある」が最多となり、その一方で、「外国語の運用能力がある」といったイメージはあまり持たれていないことがわかりました。

3. 採用理由

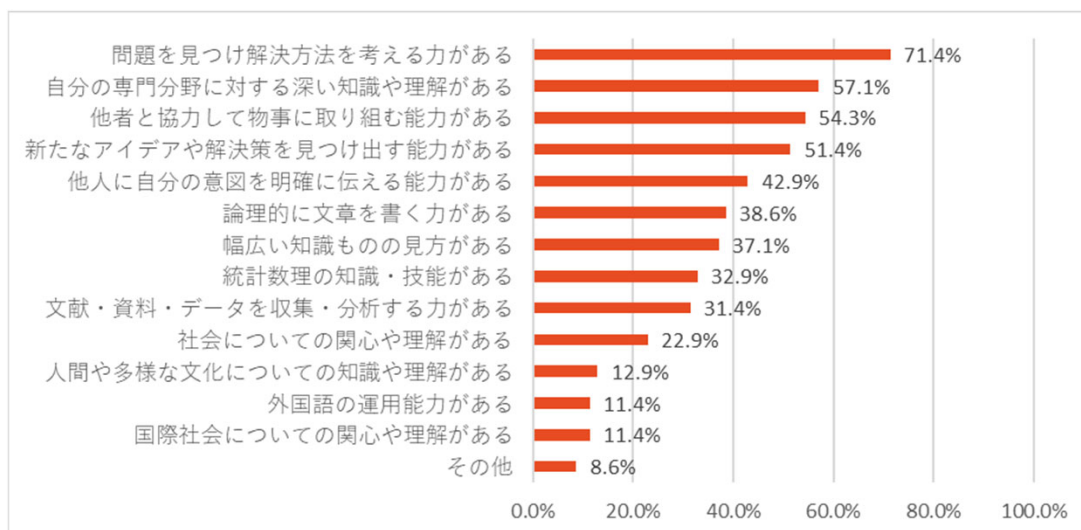
九州大学の学部卒業生/大学院修了生を採用した理由についてお尋ねします。下記から該当する項目を選択してください（複数選択可）。

学部卒業生



学部卒業生では、「問題を見つけ解決方法を考える力」や「他者と協力して物事に取り組む力」が採用理由として特に多く回答されました。

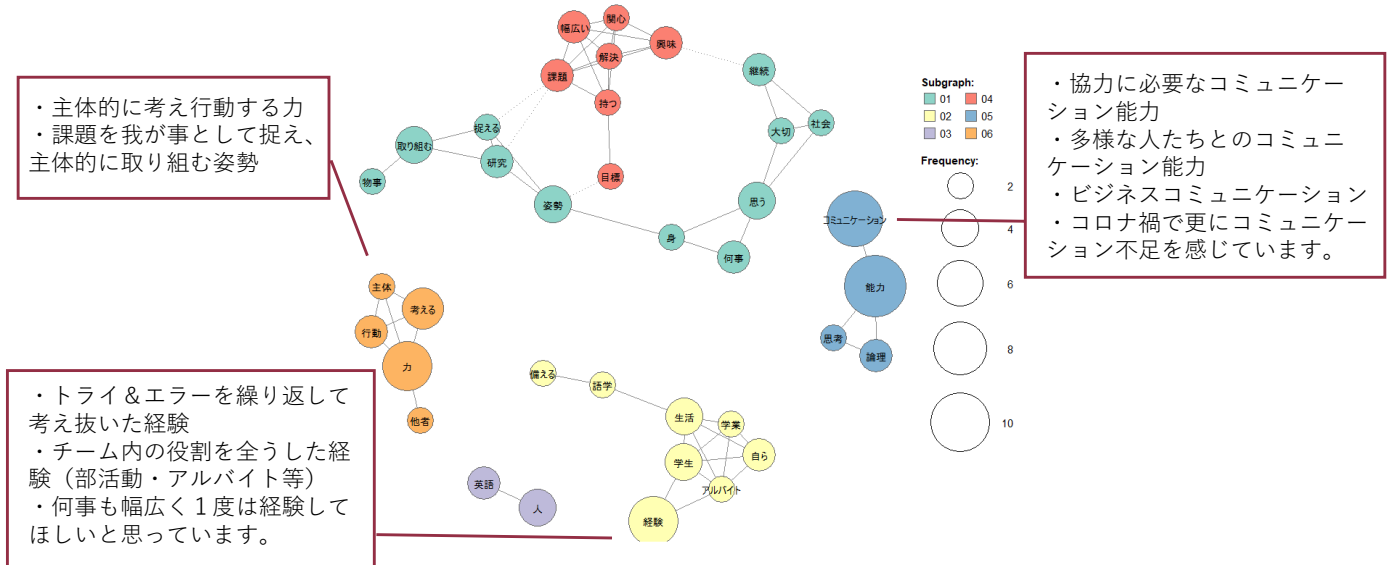
修了生



修了生では、「問題を見つけ解決方法を考える力」や「自身の専門分野に対する深い知識や理解」が採用理由として特に多く回答されました。

4. 学生時代に身につけておいてほしい能力や経験

学生時代に身につけておいてほしい能力や経験してほしい事柄に関し、ご意見がありましたらお書きください。



上の図では、記述の多かった単語ほど大きな丸となって表されています。よく一緒に使われている語が線で結ばれています。（テキストデータ分析ツール「KHコーダー」を使用。）そして、ふきだしで、その単語に関連した実際の記述をいくつか載せています。

～学生の考察～

学生班独自の考察を書いたので、よかったら見てみてください。

○全体を通して

・今回の調査では、九大出身者のイメージを聞いた設問で「わからない」という回答も少なくありませんでした。（今回のニュースレターには載せなかったのですが、詳細は「企業調査報告書」をご覧ください。）この結果については、企業が採用時に今回の項目に挙げたような能力にそもそも注目していない可能性や、学生側のイメージのアピール不足の可能性など、さまざまに考えられるため、今後の調査が求められると思います。

・人間や社会についての「知識・理解・関心」のような項目は、九大出身者のイメージを聞いた設問ではそこそこ選ばれていましたが、採用理由を聞いた設問ではあまり選ばれていませんでした。これらは、それなりに印象づけられてはいるものの、積極的な採用理由にはなっていない項目といえるのではないのでしょうか。

ただし一方で、学生時代に身につけておいてほしい能力や経験として、こうした「知識・理解・関心」につながる記述も見られました。

例) 「新しいこと、ものへの興味関心」、「幅広い分野に関する興味関心」、「異なる価値観の中における生活」

・本調査の項目でも使われている「○○力」という言葉をよく見聞きしますが、企業は学生に対して個々の個性ではなく他人と似通った能力を重視している傾向があるように思います。一方で学生もなにか能力をつけようとするあまり没個性化してしまう恐れがあります。個性を尊重した人材選びを企業には期待したいところです。

○国際的な能力について

・就職活動の際にTOEICをはじめとした外国語試験を受験する学生が多いですが、実際に「外国語の運用能力」を採用理由として挙げた企業は少なかったです。企業は九大生に対して語学の運用能力以外の強みを期待しているのか、それとも九大生に限らず、他大学の学生に対しても語学の運用能力をあまり重視していないのか。この点に関して、もう少し詳しく調査していきたいところです。

・九大出身者のイメージを聞いた設問でも採用理由を聞いた設問でも、「国際社会についての関心・理解」や「外国語の運用能力」は、あまり肯定的な評価を受けていませんでした。しかし、採用理由を聞いた設問では、「外国語の運用能力」は「わからない」という回答も比較的多くありました。以上のことは、こうした能力が、九大出身者に不足しているというよりも、今回の企業調査に回答した企業によって、九大生を採用した理由として、優先的に掲げられているわけではなかったということではないでしょうか。ただし一方で、「学生時代に身につけておいてほしい能力や経験」の自由回答からは、グローバル人材的な能力を必要とする企業や、プラスアルファとして肯定的にとらえる企業の存在も認められます。例)「語学力・異なる価値観の中における生活」、「英語力の強化」、「英語を含む語学能力や論理的に文章を書く力については、そこを重視しているわけではないですが、だからこそ備えているとありがたいです。」

○コミュニケーション能力について

・学生に対してコミュニケーション力を求めている企業が多いですが、企業が考える「コミュニケーション力」とはいったいどんなものを指すのか気になりました。コミュニケーション能力は、今回の調査の項目としては「他人に自分の意図を明確に伝える能力」や「他者と協力して物事に取り組む能力」に近いものと考えられますが、これらについて九大出身者が特に消極的な評価を得ているとは思われませんでした。企業はこれらの項目では表せていない「コミュニケーション能力」を必要としているのか、あるいはこうした能力の一層の向上を求めているのか。今後は、より具体的な中身を調査することが求められると思いました。

最後までご覧くださり、ありがとうございました！

魅力的なニューズレターにしていくために、皆様のご意見を是非お聞かせください。
九州大学教育改革推進本部メールアドレス innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp

教育改革推進本部九州大学ステークホルダー調査 (KU-SHS) 学生班
宮崎真弥 (九州大学大学院人間環境学府修士2年)、南出栞歩、山田真理子 (九州大学大学院人間環境学府修士1年)、安本祥子 (九州大学文学部4年)

※教育改革推進本部九州大学ステークホルダー調査 (KU-SHS) 学生班は、学生による大学運営への貢献を促進する目的で、令和4年6月に設置されました。
学生班は、教育改革推進本部長 (総長) の委嘱を受けて、九州大学ステークホルダー調査の分析・報告・広報を担当しています。